

平成23年度 センターご利用状況

(11月末日現在)

登録団体数	105団体
会議室利用件数(延べ)	754件
利用人数(延べ)	10,192名

目次

- 1面: NEWS! ボランティア養成講座を開催
- 2面: Special Interview「吉田清彦さん」
- 3面: 地域ではぐくむ子どもたち
- 4面: 「情報」コーナー

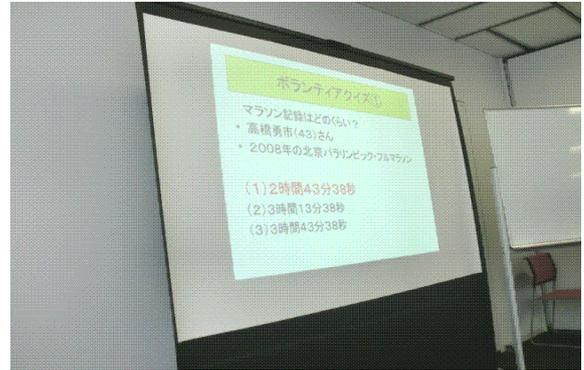
【NEWS!】 ボランティア養成講座を開催しました!

10/01 (Sat)

「初めてのボランティア講座」

さる10月1日、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにて「初めてのボランティア講座」を行い、講師の白井恭子さん(大阪ボランティア協会コーディネーター)にボランティア活動に参加するポイントを解説していただきました。

講義では、「ボランティア活動先一覧(4面参照)」や様々なボランティア活動の実例に触れながら、ボランティア活動になかなか足を踏み出せなくても「自分の関心のある分野から活動を広げていく」ことで、第一歩を踏み出せることや、行動を起こすだけでなく、オレンジリボン(注)といった、「態度で表すボランティア活動」もあるといった内容を、「ボランティアクイズ」を交え、分かりやすく説明していただきました。



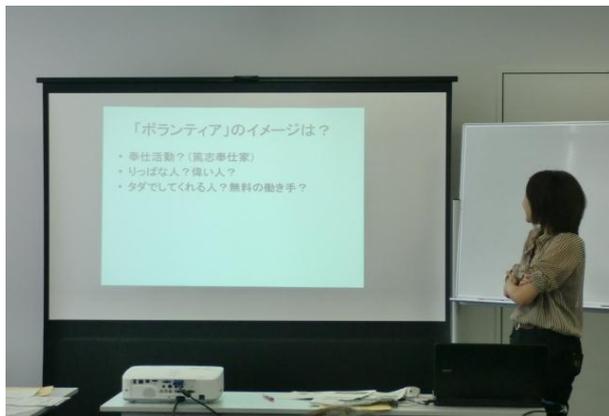
クイズを通して、ボランティアの知識をより深めていただきました!



講師の白井恭子さん(左)と、受講されるみなさん。



奈良マラソンの話題も登場しました!



パワーポイントで、視覚的に解説していただきました。

実例の中では、スポーツ分野におけるボランティアとして、奈良マラソンでのボランティアが取り上げられ、「スポーツ好きというところから入ってボランティアに関わっていく」というような市民参加型イベントもボランティアのきっかけになるものであるもので、知っておいてほしい」とのことでした。他にも各地の多様なボランティア活動も紹介していただき、参加者の皆様は、ボランティアへの思いと意欲を一層高めていました。

講座を受けた直後、「ボランティアを紹介してほしい」と相談窓口に足を運び受講者もあり、これからボランティアをしたいと思っている人たちにとって、大きな一歩となったのではないのでしょうか。

(注) オレンジリボン運動: 子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動。「リボン運動」の一つであり、他にも様々な色のリボン運動がある。最近では、乳がんについて正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進すること、などが目的の「ピンクリボン運動」が有名。

【Special Interview】 特別インタビュー 講座・イベントプランナー 吉田 清彦さん



ご多忙にも関わらず、快く私たちのインタビューに応じて下さった吉田さん。市民活動などの、様々なお話を聞かせて下さいました。

生き方を三つに分けて考える

市民活動が趣味という吉田氏は、30年前に「年収150万円で暮らす」を宣言し、ひと月の内10日働いて、20日は市民活動をするという生活をされている。その動機は、人と違ったことをしたかったからとのこと。人間の生き方を「一人で生きる」、「二人で生きる」と「みんなで生きる」の三つに分けて考えた時に、やりたいことがいっぱいあったので、「二人で生きる（恋愛や夫婦など）」を削り、「一人で生きる」と「みんなで生きる」の割合を増やしたそうだ。

3・11の震災について聞くと、阪神淡路大震災の2年後に、被災者住宅で「男の料理教室」の講師を務めたときのことを思い出すとのこと。「2年目というのは、最もしんどい時期で、それまでの人生で築いてきた様々なものや関係を失った中高年の、特に男性のダメージが大きかった。ひきこもりや自殺寸前の心理状態の人もいた。」と、当時を振り返られた。

【プロフィール】1944年兵庫県生まれ・UCC 上島コーヒー本社専属指導員、神戸喫茶調理専門学校・アカデミー喫茶学校・関西調理師学校等の講師を経て、「コマースの男女役割を問い直す会」結成。1995年同会が大府女性基金「プリムラ賞」奨励賞を受賞。以後、男女共同参画の会議・イベントの実行委員やパネリスト、ファシリテーターなどを務める傍ら、様々な市民活動・ネットワーク活動や、自治体などが主催する各講座の講師をつとめ、好評を博している。

男たちの料理教室は、男の井戸端会議

「男性は平時のうちに、関係作りをしておくことと、命に直結している『料理』ができるようになっておくこと。中高年の男性の多くは、妻に介護してもらえると知っているが、先に妻が逝く場合もある。妻に頼らず、自分で生活の自立を果たし、退職後もう一度二人の生活に向き合うことが、熟年離婚を回避する道。そこで欠かせないのが、コミュニケーションの能力。その能力を磨くためにも、男たちの料理教室が、男の井戸端会議として果たす役割は大きい。」と述べ、人と人とのつながりの大切さ、重要性を訴える。

すき間の仕事でお金になる仕組みを

ボランティアについては、「団塊の世代は、気が若く、自分が培ったスキルを生かし、社会貢献したいと思う反面お金の不安もある。これからはソーシャルビジネスやコミュニティビジネス（社会貢献と対価が両立するような仕組み）の時代ではないか。次世代へ引き継いでいける、すき間の仕事でお金になる仕組みを生み出すことが鍵になるだろう。」と語り、新しい時代の市民活動像を描いておられたのが印象的であった。

歯に衣着せぬ話す姿が印象的な吉田氏。趣味は、マンホールの写真集めだそうだ。取材の後も、道路にカメラを向ける姿があった。何を聞いても、即座に答えられる吉田さんの若さの秘訣は、座右の銘「使う筋肉と脳は衰えない」の実践にあると感じた。

【Column】 万里一空 Vol.2

このコーナーでは、当センターのコーディネーターがリレー形式で、テーマを決めて書き綴ります。今回は菱田が、JICAのボランティア体験を振り返りました！

「わたしのボランティア体験」

私がボランティアをしようと思ったのは退職を控えた平成19年秋であった。しかし37年間、農業機械関係の会社一筋で過ごしてきたため、いざ退職と言っても、何をしてもよいのやらからない。これからの人生を色々考えていた時、JICAの海外シニアボランティアの情報が目に留まり、思い切って応募に踏み切った。運よく合格した私は、これまで会社で培った経験や知識が生かせるスリランカの農業機械指導への派遣が決まった（※）。

スリランカの農業機械指導とは、約40年ほど前、当時の西ドイツの協力で「農業機械化センター」が設立され、教官の育成をしたのが始まりであるが、時と共に当時の教官は定年などで退職していくことから、新しい指導者が必要とされていた。

しかし、当時のスリランカでは、教授は理論のみ、



技術者は実務のみという風潮であった。そのため、理論も実務も分かる指導者が不足した状態であることから、JICAに講師の派遣要請が入ったのである。

私は現地の「農業機械化センター」へ配属され、ディーゼルエンジンの分解組立や故障診断修理などについて、農業機械センターの教官や大学生、販売店の修理担当の人たちを対象にした1週間から10日間の講習で、講師をつとめることになった。他にトラクター、変速機電装品、油圧機器の取扱いや故障診断や修理といったコースがあった。

2年間のボランティアを通じて、「喜んで行い、そして行ったことを喜べる人は幸せである。」とゲーテも言っている内容を感じられたのが、私にとっての大きな収穫であった。

（※）採用試験では第1次健康診断で半数以上の方が不合格になるので、健康が第一である。

【Topics】

地域ではぐくむ子どもたち

～「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子ども」を一人でも多く育てたい。地域と学校の架け橋に～

今号から新連載として始まった「地域ではぐくむ子どもたち」は、ボランティアを含めた地域の人たちが、学校とどのように連携し、子どもたちの教育に関わっているのかを取り上げ、次号以降もお伝えする記事です。

今回は奈良市の地域教育を考える委員会において、地域コーディネーターの代表として委員になられておられる太田淳子さんに、奈良市の地域と学校の連携についてお話を伺いました。



地域コーディネーターの太田淳子さん

まず地域と学校の連携にはどのような事業があるのでしょうか？

奈良市では「地域で決める学校予算事業」を行っており、私はその事業のコーディネーターを務めています。簡単にこの事業を説明すると、市内の22中学校区を基本単位にして、それぞれの校区の実情にあった形で、地域と学校の「つなぎ役」を各校区の地域コーディネーターが担い、地域の皆さんの力をお借りして、地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みづくりを進めると同時に地域の活性化も図る事業です。目標は奈良市教育ビジョンが掲げる「地域全体で子どもたちを守り、育てる」・「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子どもを育てる」などを達成することですが、私は特に「奈良という地域を愛する子」を育てるといふ部分に共感を持っています。

コーディネーターになるきっかけはなんだったのでしょうか？

私は4人の子どもを育てるにあたって、小中学校のPTA役員をさせていただいたのですが、その時にコーディネーターのお話を伺い、興味をもちました。私は長年関わってきた学校と先生方にすごく愛着があったので、これまで以上に学校への理解を深め、恩返しをしようと思いました。

その後、コーディネーターとして様々な方とお話させていただき、地域も学校も行政も子どもたちへの想いは一緒なのですが、うまく連携してゆく仕組みづくりの難しさを感じました。

ただ、私自身も、コーディネーターとして、これまでとは違い市全体の教育を考えながら、子どもたちを育てていくこの事業に関われてすごくやりがいを感じています。



地域の夏祭りに地域コーディネーターや学校関係者で参加

地域と学校が連携することにはどういった意味があるのでしょうか？

個人的な考えですが、子どもたちが地域に育てられたことで、将来県外に巣立つかもしれませんが、何年後もしくは何十年後かに地域に貢献してくれるような大人になってくれるはずだという想いをもっています。

また、学校による地域貢献も多大にいただいています。例えば、児童・生徒には地域の清掃活動などに協力してもらっていますが、こういった貢献を通して、自分が社会の役に立つ人材だという自己肯定観を醸成してくれているのだと感じます。

コーディネーターの方々のやりがいとは何でしょうか？

生徒と関わるのが好きで、そこにやりがいを感じる方もいれば、地域のために貢献し、地域の方たちから感謝してもらうことに喜びを感じられる方などコーディネーターによって様々です。

私の場合は学校や先生がとにかく好きで、心が通じ合い、信頼関係が築けたときにやりがいを感じます。

これからコーディネーターとしてどのようなことに取り組みたいですか？

校区には中学校といくつかの幼稚園や小学校があり、それぞれの学校園にコーディネーターがいるのですが、よりその連携を深めていきたいですね。子どもの成長は幼稚園・小学校・中学校という時期だけでははかれないものがあると思いますので、そのような区分で取り組むのではなく、各学校園の取り組みについて横のつながりを持ち、共有することが大切だと感じています。お互いの学校の行事や活動について情報交換を図るのはもちろん、幼小中校種間の活動へ互いが積極的に参加する段階にまでなれば良いと思っています。

最後に・・・

各中学校区地域教育協議会ではその地域の実態に応じた特色ある教育活動を展開されています。この機会に、是非それらの取り組みについてクローズアップしてほしいですね。

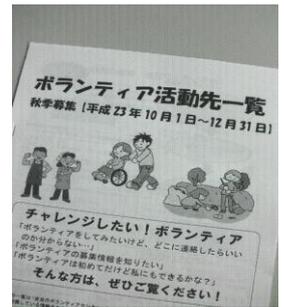
【Pick Up!】 インフォメーションセンターの「情報」コーナー

「ボランティア活動一覧」好評配布中です。

ボランティア活動の募集情報を集約した「ボランティア活動先一覧（写真は秋季募集分）」を、奈良市ボランティアセンターと共同で作成しました。およそ 30 件の募集情報を、活動分野ごとに分けて掲載しています。

一覧は当センターをはじめ、奈良市ボランティアセンターや奈良市内の大学、専門学校の一部に設置しています。追加情報があれば随時更新の予定です。また、各団体様のボランティア募集情報も、随時掲載してまいりますので、お気軽にご相談ください。

いくつかの活動の中から自分の関心のあるボランティアを選んだり、新しいボランティア募集情報を知りたい人などにおすすめです。ぜひご活用ください。



「団体登録」のご案内です。

- ボランティアインフォメーションセンターの会議室や大小ロッカー（※）及びメールボックス（右写真）のご利用を希望される団体（市民公益活動団体）は、センターへの団体登録が必要になります。
- センター登録には、登録の条件や利用上の注意等をご理解いただいた上で、所定の用紙に必要事項への記入をお願いしております。（印鑑は不要です。）
- 提出いただく書類は、登録申請書・団体の規約及び名簿です。
- 必ずセンターの窓口で手続きをお願いします。

（郵送やFAXでの受付は致しません。）

（※）今年度の大・小ロッカー使用の受付は終了しておりますが、来年度ご利用分につきましては、改めて募集を行う予定です。



映画を観ませんか？

当センターでは、ボランティアや青少年教育関係などのテーマで映画上映を行っています。今では珍しい16mm映写機の作品も、無料で上映していますので、空き時間などに気軽に観ただけです。

ボランティアの映画ってというと、一見「堅そう」「退屈そう」なイメージがあるかと思いますが、実際に観ると意外に面白い作品も多いですよ。

映画の鑑賞という何気ないことですが、これがあなたのボランティア歴の1ページ目になるかも知れません。詳しい上映日時や上映作品につきましては、電話や窓口でお問い合わせいただくか、当センター内のポスターやチラシをご覧ください。また、しみんだよりやホームページにも情報を掲載しております。

あ と が き

今号も制作に時間がかかりました。が、苦勞した成果として、創刊号に続き4ページの拡大版でお届けすることができました！

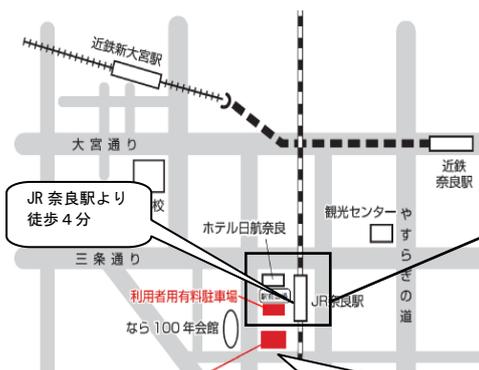
今号ではじめて「HUG」を手にした方も、そうでない方も、最後までお読みいただきありがとうございます。

さて、今号は、内容が盛りだくさんとなりました。特に新連載の「地域ではぐくむ子どもたち」は、地域と学校の連携というテーマに密着する注目の企画であり、今後、力を入れて取り組みたいと思います。

たくさんのことを、いかに限られた紙面の中で表現するかという永遠のテーマと向き合いながら、これからもより良い紙面づくりに励みたいと思います。

センターへのアクセス

駐車場周辺拡大図



※通行止めのお知らせ：三條本町線(三條アンダー道路)
平成23年10月4日(火)午前11時～平成25年3月下旬(予定)

発行：奈良市ボランティアインフォメーションセンター
ご連絡・お問い合わせは・・・
〒630-8122 奈良市三條本町13番1号
はぐくみセンター
(奈良市保健所・教育総合センター)1階
奈良市ボランティアインフォメーションセンター
TEL：0742-93-8435
FAX：0742-34-2336
URL：http://www.city.nara.nara.jp/
E-Mail：kyoudousuishin@city.nara.lg.jp
開館時間：9:00～21:00(月～土曜日)
9:00～17:00(日曜・祝日)
休館日：年末年始